

■チーム情報

■女子日本代表チーム (FIBA ランキング 15 位) ※2011 年 6 月 8 日現在



2004 年、「仙台の奇跡」と言われた激戦を制してアテネオリンピックの出場を果たした後、選手の世代交代やチーム体制の変動などもあり、2006 年世界選手権大会(第 15 回／ブラジル)、2008 年北京オリンピックと相次いで世界の舞台への出場を逃してしまった女子日本代表チーム。しかし、中川文一ヘッドコーチが 10 年ぶりに指揮官に就任した平成 21 年には「第 23 回 FIBA ASIA 女子バスケットボール選手権大会(2009 年／インド)」で 3 位となり、「第 16 回 FIBA 女子バスケットボール世界選手権大会(2010 年／チェコ)」の出場権を獲得し、世界の舞台に再び咲いた。

昨年は 2 大会ぶりに出場となった「第 16 回 FIBA 女子世界選手権大会」において、大会を通じて僅差の展開を制することができない歯がゆい試合が続きチーム成績は 10 位にとどまったが、大神雄子(JX サンフラワーズ)が得点女王(1 試合平均 19.1 得点)、吉田亜沙美(JX サンフラワーズ)がアシスト女王(1 試合平均 4.6 本)に輝き、個人能力の高さを見せつけた。また、11 月に行われた「第 16 回アジア競技大会」では宿敵韓国に敗れたものの、2 大会連続の銅メダルを獲得した。

今年度の日本代表チームに名を連ねるのは、世界の得点女王で、日本代表のキャプテン、フロアリーダー、そして得点源と 3 つの顔でチームを引っ張る大神雄子。激しいディフェンス、リバウンドからボールを奪い、相手を活かす絶妙なパスを配給し得点に導く世界のアシスト女王、吉田亜沙美。最年長でチームを精神的に支え、長身から放たれる 3P シュートやドライブ、速攻とオールラウンドな活躍を見せる、三谷藍(富士通レッドウェーブ)といった日本代表を支えるメンバーに加え、191cm の長身と長いリーチを持ちながらゴール下に留まらない広いエリアでのプレイをも得意とする 19 歳の日本の至宝、渡嘉敷来夢(JX サンフラワーズ)。唯一の高校生であり、180cm の身長ながらしなやかなプレイが持ち味の長岡萌映子(札幌山の手高校 3 年)とフレッシュな顔ぶれがそろった。

今年度の目標は何よりも 8 月 21 日に長崎県大村市で開幕する「第 24 回 FIBA ASIA 女子バスケットボール選手権長崎/大村大会 兼 2012 年ロンドンオリンピック アジア地区予選」で優勝を果たし、2 大会ぶりとなるロンドンオリンピックの出場権を獲得すること。大会に向けて海外遠征や今大会で実戦強化を積み、悲願達成を目指す。カナダ代表とは第 3 次強化合宿(ヨーロッパ遠征)期間中(5 月 30 日)に対戦し、72-55 で勝利している。

■カナダ代表チーム (FIBA ランキング 12 位) ※2011 年 6 月 8 日現在

カナダ代表はオリンピック出場 4 回、FIBA 女子バスケットボール世界選手権大会出場 9 回を数える強豪。近年では FIBA 女子バスケットボール世界選手権大会に 2 大会連続出場中で、第 15 回大会(2006 年／ブラジル)は 10 位、第 16 回大会(2010 年／チェコ)では 12 位であった。

主力選手は第 16 回 FIBA 女子世界選手権大会で得点リーダーの SMITH, Kimberley。5 月 30 日の日本代表戦でもチームハイの 15 得点を挙げた。また、同じく第 16 回 FIBA 女子世界選手権大会出場組で得点、リバウンドに貢献した 198cm のセンター、PHILLIPS, Krista、そしてベテランの GABRIELE, Teresa がポイントガードとしてチームの司令塔を務める。

第 16 回 FIBA 女子世界選手権大会では 12 位と 10 位の日本よりも下の順位で終えたが、25 得点を挙げた SMITH, Kimberley の活躍もあり、アジアの雄である中国に 65-61 で勝利した。ガード以外の選手は軒並み 180cm を超える大型で、実力を秘めたチームである。